

科目ナンバリング		U-LAS05 20009 SJ40							
授業科目名 <英訳>		社会人類学調査演習 Seminar of Social Anthropological Research				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 岩谷 彩子	
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)		地域・文化(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位		週コマ数	1コマ		授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	木2		配当学年	全回生		対象学生 全学向
[授業の概要・目的]									
人類学のフィールドワークにおける参与観察は、調査者と被調査者相互の認識の変容をともなう行為である。これまでその重要性は指摘されながらも、調査対象の身体感覚や情動についての理論化や、調査者自身の感覚や認識の変容を含んだエスノグラフィ（民族誌）の方法論はいまだに十分とはいえない。本講義では、身体感覚や情動を扱った代表的な民族誌や映像作品を参考にしながら、身体感覚や情動を記述・描写し、理論化する方法について模索する。									
[到達目標]									
人間の身体感覚や情動について、参与観察によるデータ収集を経て記述・描写し、理論化するための方法論を習得する。 調査者の感覚や認識の変容を含むエスノグラフィの方法論を考察する。									
[授業計画と内容]									
1. フィールドワークと人類学者 2. フィールドワークする身体（1） 3. フィールドワークする身体（2） 4. エスノグラフィを書く（1） 5. エスノグラフィを書く（2） 6. ヴィジュアル・メソッドによるエスノグラフィ（1） 7. ヴィジュアル・メソッドによるエスノグラフィ（2） 8. 身体感覚の変容を描く（1） 9. 身体感覚の変容を描く（2） 10. 情動を描く（1） 11. 情動を描く（2） 12. 自己と世界の揺らぎを描く（1） 13. 自己と世界の揺らぎを描く（2） 14. フィールドワークが変えるもの 15. フィードバック									
[履修要件]									
人類学関連の講義、あるいはフィールドワークを含む講義を履修した経験があるか、本講義と同時に履修していること。									
[成績評価の方法・観点]									
授業への出席が前提となる。平常点（参考文献／民族誌映画の報告…50%、討論への積極的な参加…50%）で評価する。									

社会人類学調査演習(2)へ続く↓↓↓									

社会人類学調査演習(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

カスタネダ、C. 『呪術師と私—ドン・ファンの教え』 (二見書房)

クリフォード、J.、 マーカス、G. (編) 『文化を書く』 (紀伊國屋書店)

Dawson, A., Hockey, J. and James, A. (eds) 『 After Writing Culture: Epistemology and Praxis in Contemporary Anthropology』 (Routledge)

新井 一寛、岩谷 彩子、葛西 賢太 (編) 『映像にやどる宗教、宗教をうつす映像』 (せりか書房)

村尾静二、久保正敏、箭内匡 (編) 『映像人類学(シネ・アンソロポロジー)—人類学の新たな実践へ』 (せりか書房)

石井美保・岩谷彩子・金谷美和・河西瑛里子 (編) 『官能の人類学—感覚論的転回を越えて』 (ナカニシヤ出版)

Pink, Sarah 『Doing Sensory Ethnography』 (Sage)

西井凉子・箭内匡 『情動 (アフェクトゥス) — 一生の外側に触れる』 (京都大学学術出版会)

石井美保 『遠い声をさがして—学校事故をめぐる〈同行者〉たちの記録』 (岩波書店)

クラパンザーノ、V. 『精霊と結婚した男—モロッコ人トゥハーミの肖像』 (紀伊國屋書店)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で示される文献を必ず事前に入手し、読んだうえで授業に臨むこと。

[その他 (オフィスアワー等)]

授業では受講生が関連文献を報告する参加型の演習であるため、履修制限を行う。
積極的に授業での議論に参加すること。

[主要授業科目 (学部・学科名)]

総合人間学部